

資料1

平成30年度 市立小・中学校における組体操取組状況等調査 集計結果

【調査時点】平成31年1月31日時点（回答期間2月1日から2月18日）

小学校	設置数	回収数	回収率
	46	46	100%

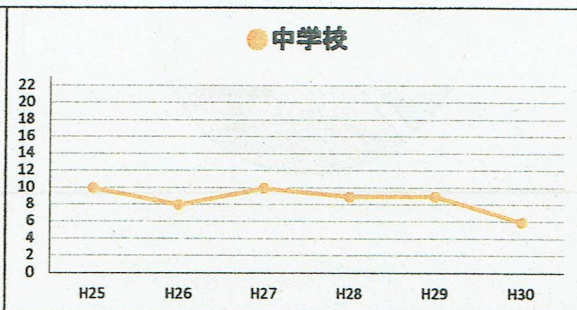
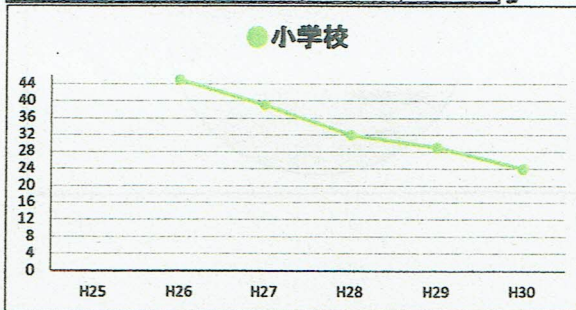
中学校	設置数	回収数	回収率
	23	23	100%

○組体操実施校数の推移（平成25年度以降）

小学校の実施校数は、調査開始以降年々減少傾向にあり、平成30年度は全46校中24校（実施率52.2%）だった。中学校では、調査開始以降ほぼ一定の割合で推移してきたが、平成30年度は全23校中6校（実施率26.1%）で、前年度から3校減少した。

	小学校（全46校）		中学校（全23校）	
	実施校数	実施率	実施校数	実施率
H25年度	—	—	10校	43.5%
H26年度	45校	97.8%	8校	34.8%
H27年度	39校	84.8%	10校	43.5%
H28年度	32校	69.7%	9校	39.1%
H29年度	29校	63.0%	9校	39.1%
H30年度	24校	52.2%	6校	26.1%

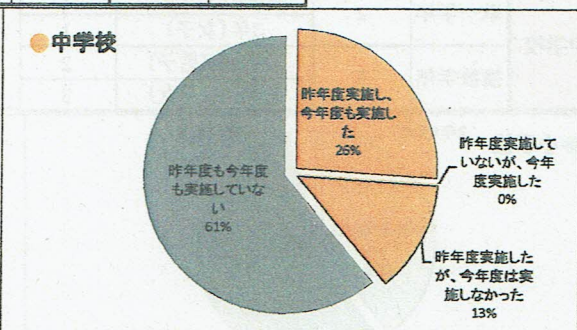
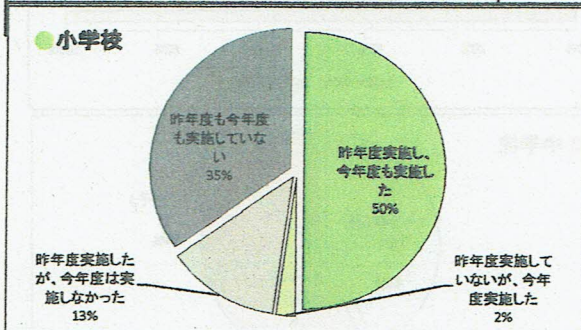
※注1：平成25年度、小学校の実施状況は調査していない。
 ※注2：平成26年度、中学校の1校においては、体育祭を開催していない。（文化祭と隔年で実施）
 ※注3：平成27～30年度、中学校の1校において、応援合戦の演技で一部の生徒を対象に行った数が含まれている。



○平成29年度と平成30年度の実施状況について

小学校において、今年度組体操を実施した24校のうち、昨年度からの継続実施は23校、昨年度実施していなかったのは1校だった。また、今年度実施しなかった22校のうち、昨年度から継続して実施しなかったのは16校、昨年度は実施したが今年度は実施を見送ったのは6校だった。中学校では、今年度実施した6校は、全て昨年度からの継続実施だった。また、昨年度実施したが今年度は実施を見送ったのは3校だった。

	小学校（全46校）		中学校（全23校）	
	回答数	%	回答数	%
H29年度実施し、H30年度も実施した	23	50.0	6	26.1
H29年度実施していないが、H30年度実施した	1	2.2	0	0.0
H29年度実施したが、H30年度は実施しなかった	6	13.0	3	13.0
H29年度もH30年度も実施していない	16	34.8	14	60.9



昨年度は実施したが、今年度は実施を見送った学校が挙げたその「主な理由」は次の通りだった。

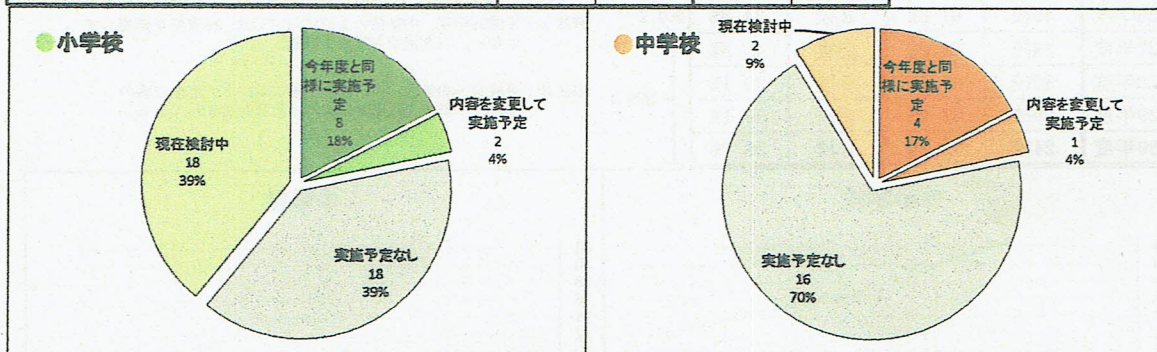
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・表現で行いたい演技の中に組体操の要素を加える必要がなかった。 ・児童の実態を踏まえ、安全面を考慮した。 ・児童の体格差・体力差が大きいことと、指導時間の確保が難しいこと。 ・練習時間の確保が難しいことと、世間の風潮。 ・今年度は、日本の民謡や表現に力を入れて指導した。 ・表現運動との組み合わせること（構成）の難しさ。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・組体操による事故が問題視されていることを受け、組体操に代わる集団演技を計画した。 ・集団演技（ダンス）の構成上、必要ではないと判断した。 ・指導時間や他の授業時数の確保、生徒の体力の状況、指導経験のない教員が増えてきたことなど。

○平成31年度の実施予定（平成30年1月末の予定）

小学校では10校、中学校では5校が、次年度に「組体操を実施する予定である」と回答した。このうち、今年度と同様に実施を予定しているのは、小学校8校、中学校4校だった。

また、「実施する予定はない」と回答したのは、小学校18校、中学校16校、「現在検討中」と回答したのは、小学校18校、中学校2校だった。

	小学校（全46校）		中学校（全23校）	
	回答数	%	回答数	%
今年度と同様に実施する予定	8	17.4	4	17.4
内容を変更して実施する予定	2	4.3	1	4.3
実施する予定はない	18	39.1	16	69.6
現在検討中である	18	39.1	2	8.7



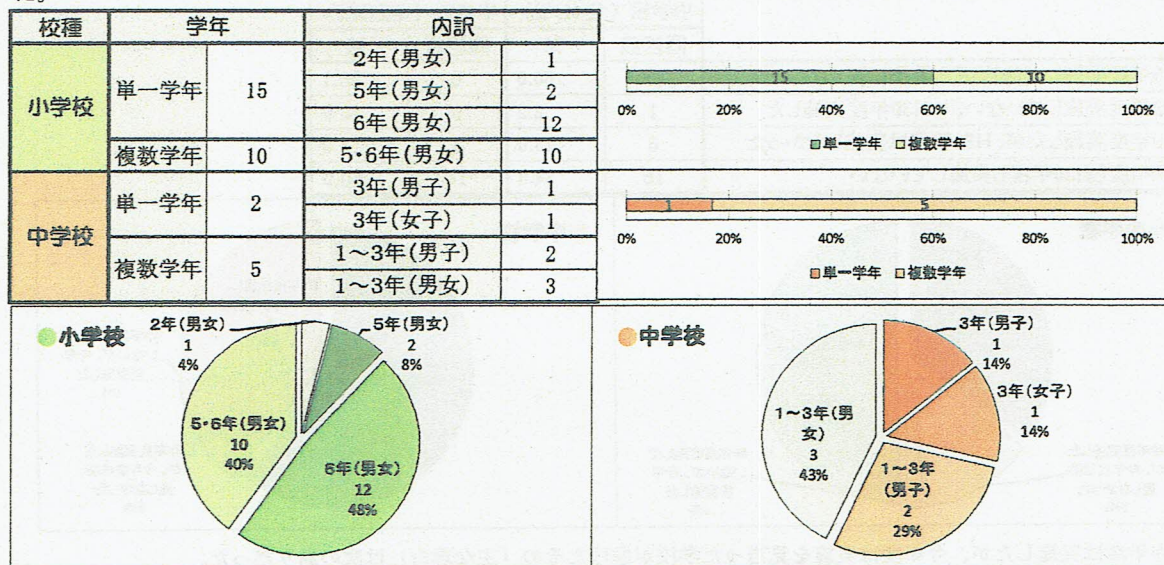
※以下は、平成30年度実施校のみが回答した内容

○実施した学年等の状況

小学校では、単一学年での実施と複数学年での合同実施に分かれた。また、多くの学校で高学年を対象に行われた。

中学校では、ほとんどの学校が全ての学年を対象に実施された。

なお、小学校では全ての学校が男女を対象に実施したが、中学校では男子のみの実施と、男女での実施に分かれた。



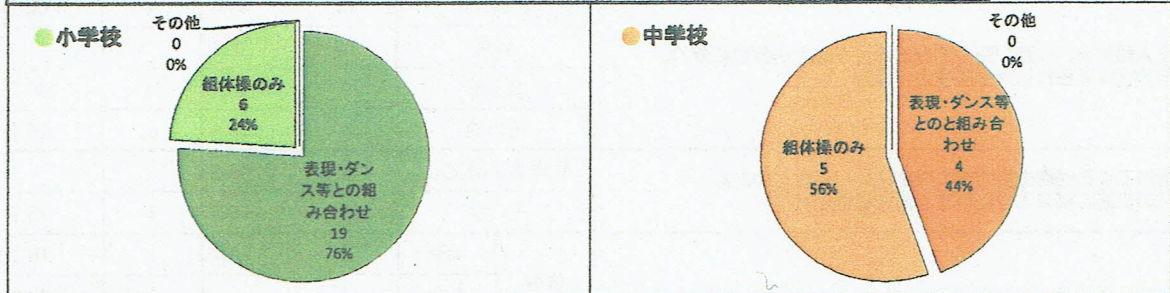
【補足】小学校のうち1校は、2年生と6年生において、それぞれで単一学年の演技として実施した。
また、中学校のうち1校は、1～3年男子と3年女子において、それぞれ別の演技として実施した。

○実施形態の状況

小学校では、多くの学校が組体操以外の要素（表現運動・ダンス等）と組み合わせた演技として実施したが、組体操のみの演技も6校ほど見受けられた。

中学校では、組体操以外の要素と組み合わせた演技と、組体操のみの演技とに分かれた。

	小学校（実施24校）		中学校（実施9校）	
	回答数	%	回答数	%
表現・ダンス等との組み合わせ	19	76.0	3	42.9
組体操のみ	6	24.0	4	57.1
その他	0	0.0	0	0.0

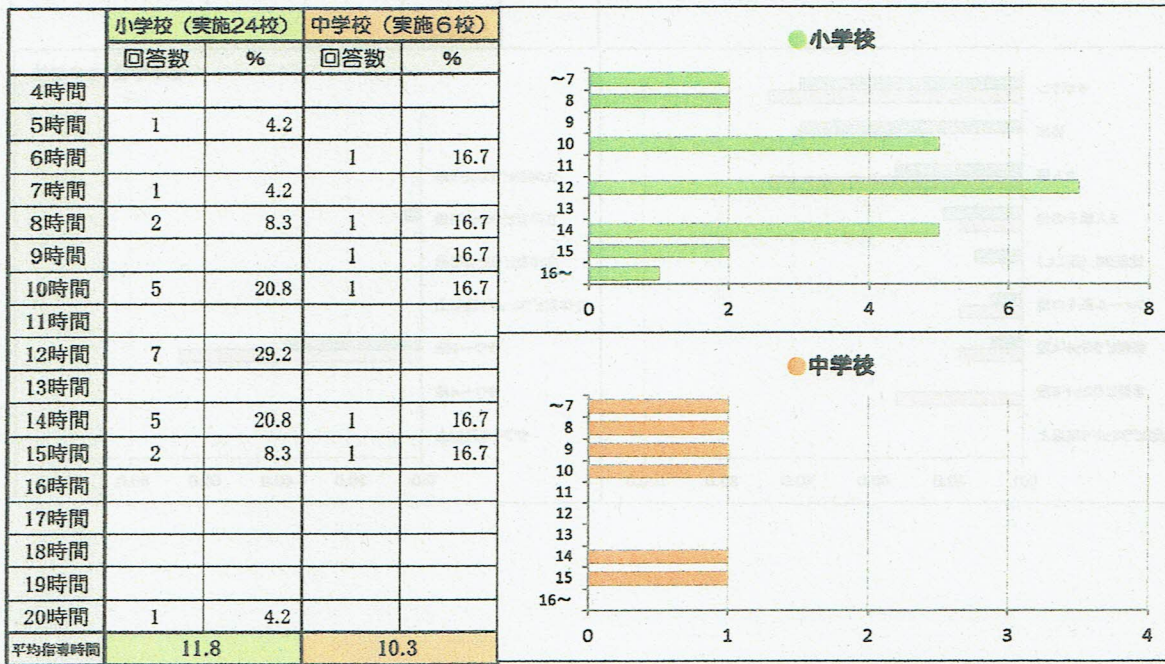


【補足】小学校のうち1校は、2年生と6年生において、それぞれで単一学年の演技として実施した。
また、中学校のうち1校は、1～3年男子と3年女子において、それぞれ別の演技として実施した。

○演技発表における指導単位時間数の状況

小学校では、12単位時間という回答が最も多かった。中学校では、6校全てが異なる指導単位時間だった。

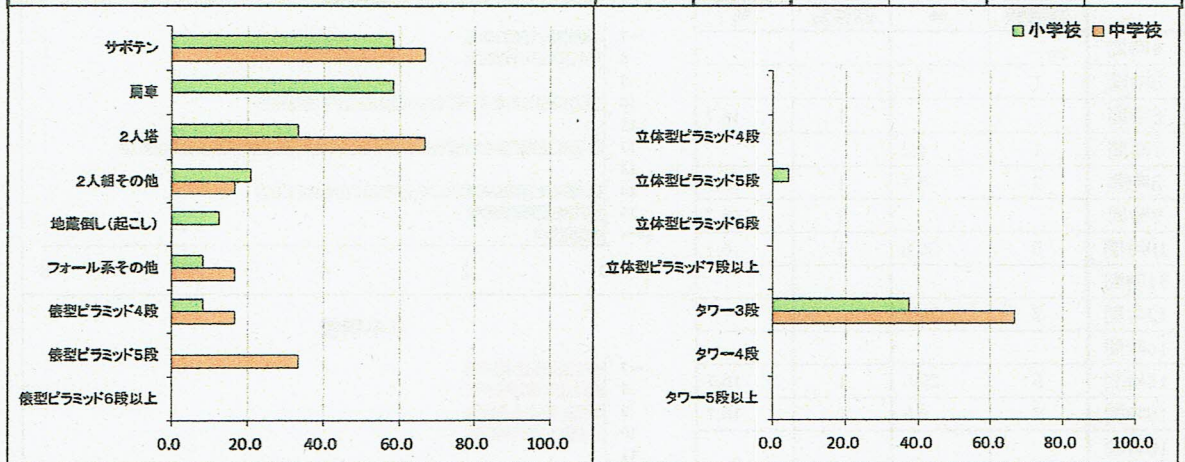
また、もっとも多い指導単位時間は、小学校では20単位時間、中学校では15単位時間であり、もっとも少ないのは、小学校では5単位時間、中学校では6単位時間だった。



○指導している種目（技）の状況

小中学校ともに、「2人組等で、一方が相手のひざの高さ以上の部位に乗り、下肢を支えられる形態の種目（技）」の実施率が比較的高かった。
 「ピラミッド型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）」と「タワー型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）」においては、中学校での実施率が比較的高かった。
 なお、もっとも高い段数の実施は、俵型ピラミッドで5段（中学校2校）、立体型ピラミッドで5段（小学校1校）、タワーで3段（小学校9校・中学校4校）だった。

種目（技）の形態・名称等		小学校（実施24校）		中学校（実施6校）		
		回答数	%	回答数	%	
2人組等で、一方が相手のひざの高さ以上の部位に乗り、下肢を支えられる形態の種目（技）	サボテン	14	58.3	4	66.7	
	肩車	14	58.3			
	2人塔	8	33.3	4	66.7	
	その他	5	20.8	1	16.7	
倒れてくる児童生徒を他の児童生徒が受け止めたり、元の位置に跳ね上げたりする形態の種目（技）	地蔵倒し（起こし）	3	12.5			
	その他	2	8.3	1	16.7	
ピラミッド型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）	俵型ピラミッド	4段	2	8.3	1	16.7
		5段			2	33.3
		6段以上				
	立体型ピラミッド	4段				
		5段	1	4.2		
		6段				
		7段以上				
	タワー型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）	タワー	3段	9	37.5	4
4段						
5段以上						



○安全指導に関する通知内容の達成状況

平成30年4月5日付け「組体操等による事故の防止について（通知）」にて、「学校の実情に応じて活動内容を検討し、更なる安全対策の徹底を図るために踏まえるべき5点」の内容について、多くの小中学校が「十分達成できた」「おおむね達成できた」と回答した。

「大きな事故につながる可能性がある技について、確実に安全な状態で実施できるか確認し、場合によっては実施を見合わせる事」「危険度の高い技について、慎重に選択すること」の2点については、小学校では全ての学校が、中学校では8割の学校が「十分達成できた」と回答した。

「実施のねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図ること」については、小学校1校で「やや課題が残った」と回答した。

小学校（実施24校）	十分達成できた	おおむね達成できた	やや課題が残った	かなり課題が残った
組体操を実施するねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図ること。	14校 (58.3%)	9校 (37.5%)	1校 (4.2%)	
児童生徒の習熟の状況を正確に把握し、それに応じて活動内容や指導計画を適時適切に見直すこと。万一、練習中に負傷事故が発生した場合は速やかにその原因を究明し、活動内容の見直しや更なる安全対策を講じるなどの措置をとること。	18校 (75.0%)	6校 (25.0%)		
児童生徒が高い位置に上がる技、一人に多大な負荷のかかる技など、大きな事故につながる可能性がある技について、確実に安全な状態で実施できるかどうかをしっかりと確認し、できないと判断される場合には実施を見合わせる事。	24校 (100%)			
児童生徒の状況を踏まえつつ、事故につながる可能性がある危険度の高い技については特に慎重に選択すること。	24校 (100%)			
国、県、市からの情報をもとに、具体的な事故の事例、事故になりやすい技などの情報を、指導する教職員に周知徹底すること。	16校 (66.7%)	8校 (33.3%)		

中学校（実施6校）	十分達成できた	おおむね達成できた	やや課題が残った	かなり課題が残った
組体操を実施するねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図ること。	3校 (50.0%)	3校 (50.0%)		
児童生徒の習熟の状況を正確に把握し、それに応じて活動内容や指導計画を適時適切に見直すこと。万一、練習中に負傷事故が発生した場合は速やかにその原因を究明し、活動内容の見直しや更なる安全対策を講じるなどの措置をとること。	6校 (100%)			
児童生徒が高い位置に上がる技、一人に多大な負荷のかかる技など、大きな事故につながる可能性がある技について、確実に安全な状態で実施できるかどうかをしっかりと確認し、できないと判断される場合には実施を見合わせる事。	5校 (83.3%)	1校 (16.7%)		
児童生徒の状況を踏まえつつ、事故につながる可能性がある危険度の高い技については特に慎重に選択すること。	5校 (83.3%)	1校 (16.7%)		
国、県、市からの情報をもとに、具体的な事故の事例、事故になりやすい技などの情報を、指導する教職員に周知徹底すること。	4校 (66.7%)	2校 (33.3%)		

○通知内容以外で、今年度意識的に取り組んだ事柄について

前述の通知内容の他に、「指導時間の確保と段階的指導」「事故防止のための教職員の適切な配置（練習段階から）」「児童生徒の実態に応じた演技内容の見直し」について、多くの学校で取り組まれた。

	小学校（実施24校）		中学校（実施6校）	
	回答数	%	回答数	%
指導時間を十分確保し、段階的に指導する。	23	95.8	6	100.0
資料等を用いて、児童生徒の理解が深まるよう指導する。	18	75.0	5	83.3
年間を通して、児童生徒の体力を十分に高める指導を行う。	12	50.0	5	83.3
練習時から、教職員を適切に配置して事故を防止する。	21	87.5	6	100.0
児童生徒の実態に応じ、演技内容を見直す。	24	100.0	6	100.0
その他	2	8.3	1	16.7

「その他」と回答した学校が、その具体的な内容として挙げたのは、次の通りだった。

小学校	<ul style="list-style-type: none"> 画像や動画を見せて技のイメージを持たせたり、技の危険な箇所などを具体的に示したりして指導した。 二段の技（人の上に人が乗る高さ）までを上限とし、横に広げることで見栄えを良くしつつ、安全面に最大限配慮して行った。 学習カードを活用し、児童の現状把握に努めた。 最後の2回の練習以外は体育館にマットを敷いて練習をした。 全職員に安全計画を配布し、運動会当日、補助を行った。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員を交え、講習会を行った。 生徒にも補助の仕方を指導し、生徒同士で安全に補助をしながら練習できるようにした。

○今年度の指導の反省を踏まえ、さらに改善すべきと思われる点について（自由記述）

小学校	組体操を行うならば、演技内容にあった簡単な技に厳選するなどの配慮が必要。
	児童の安全面を考慮し、今後は表現運動を中心にした種目を行う予定。
	今年度は、練習前の準備の場面で事故が起きてしまったので、用具の運び方等の安全指導を徹底したい。また、演目を早めに決定し、余裕をもって計画を練ることで、より安全で充実した指導ができると感じている。 組体操にこだわらず、様々な表現(ダンス)等を取り入れ、だれでもできて、楽しく安全に行える演目を考える必要がある。ねらいを明確にした指導がより必要であると感じた。
	次年度は、教育委員会からいただいている指導プリントをさらに活用して職員全体の共通理解を図っていきたい。
	今年度と同様、児童の実態に応じて指導をしていきたい。
	児童に演技を選ばせる場を設け、児童の不安を受け止めたり、形を変えたウェーブなど、安全で見栄えのある演技を工夫することも必要だと感じた。
	実施する場合、技のポイント等が分かる図解資料などを児童にも配布して理解が深まるように働きかけていく。また、組体操の練習だけではなく、4月からの学習と関連付けて、授業を展開していくよう意識する。
担任には、児童の実態を見抜き、技の難易度や演技構成、実施の有無について適切な判断力が求められる。組体操に取り組む意義・ねらいを明確にし、教職員にはもちろん、保護者、地域の方々にも伝える必要があると感じる。成功したときの達成感、一体感は大きく、取り組む価値は十分にある。児童の安全を最優先に、今後の実施について慎重に検討する。	
中学校	例年の流れで組み体操を取り入れる形になったが、他の表現の方法を考える必要がある。
	技の見直し。例えば、2人塔は1年生の段階では、危険度がかなり高く、それに代わる技を検討していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して基本的な姿勢づくりの指導を行う。 ・高さや重さなど、技の構造を理解し、危険を伴う可能性がある技は選択しない。 ・マット使用するなど、安全な場を確保した中で活動を行う。 ・生徒の運動能力を把握し、対応する。
	生徒の実態に応じて、実施する技を検討する。